

実施報告書

一般財団法人くまもと未来創造基金

事業名	オルビスくまもと未来基金団体基盤強化セミナー③ 「戦略的ファンドレイジング」実践編		
開催日時	平成30年9月9日(日)13:30~17:00		
会場	熊本県母子父子保養ホーム しらゆり 研修室 熊本市東区錦ヶ丘34-23(健軍自衛隊正門前)		
目的	1. オルビスくまもと未来基金採択団体の基盤強化セミナー		
内容	<p>オルビスくまもと未来基金採択団体の運営基盤を強化する研修会・個別相談会・交流会や報告会の開催により、活動の計画性や持続性、資金調達力を高めることで、持続的被災者支援活動が行われることを目的とする。</p> <p>【第3回セミナー団体としての目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援者を巻き込むためには ・伝える⇒伝わるメッセージをつくる ・支援者・協力者に向けた提案メッセージやツールをつくる ・人の心を動かすプレゼンの実践を体験する <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援者・協力者に向けたメッセージ・ツールの準備・実践をする。 		
対象	オルビスくまもと未来基金採択団体6団体・一般参加者		
参加費	無料		
参加者実数	9名	予定人数	12名(各団体から2名以上)
スタッフ	一般財団法人くまもと未来創造基金 宮原(司会進行)・本多(受付・記録) 相談会:宮原(運営)井上(会計処理等)		
内容(流れ)	1 開会挨拶	宮原	
	2 セミナー・ワークショップ	<p>【講師】株式会社LIFULL Social Funding ファンドレイズ事業部(JAPANGIVING) コンサルティング部 コンサルタント 間辺 初夏氏</p> <p>内容)支援者を巻き込むためには</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝える⇒伝わるメッセージをつくる ・ 支援者・協力者に向けた提案メッセージやツールをつくる ・ 人の心を動かすプレゼンの実践を体験する 	
	3.閉会	事務連絡 他	
	4. 相談会	各団体ごとの相談・活動の進捗状況・相談を行う	
託児	参加団体の希望により、託児を実施3名のお子さんを預かる。		



●参加者名簿(10名 欠席2団体は都合により欠席—後日フォロー研修実施)

	お名前	活動団体名
1	箕輪 透士	一般参加者(コミュニティ・カフェ準備中)
2	小田 摩衣子	熊本転入ママの会
3	松野 愛	熊本転入ママの会
4	東山 恵子	熊本転入ママの会
5	佐藤 衣の梨	熊本転入ママの会
6	中村 絵里加	ハロウィンマルシェ実行委員会
7	濱本 唯	ハロウィンマルシェ実行委員会
8	香山 佳奈	ハロウィンマルシェ実行委員会
9	穴井智子	ハンズハンズ
10	塚本 薫	ママハタラクプロジェクト

●団体の3年後の姿・抱える課題・優先すべき課題(前回セミナー)

団体名	3年後の姿	団体の課題
ママハタラクプロジェクト	活動の中からダイバーシティの実践を行い、課題を解決するプロジェクトとしての認知団体になる。	団体内のビジョンの共有 計画スケジュールリング
ハロウィンマルシェ実行委員会	実行委員会のレベルアップ(10人体制くらい)他とのコラボができ、自己資金で運営できる体制になっている	安定した資金確保 実行委員・ボランティアの増員
よかあんばいJAPAN	長期休みの子どもたち預かり、生活体験・学習体験の場提供 地域と連携し、親子味噌づくり体験が恒例となり、手作り味噌を家庭でも作る人たちが増える。	安定した財源 人材補充 連携 事業の整理・システム化・広報強化
熊本転入ママの会	活動の安定化(寄付などの収入源) ネット上の情報発信充実。熊本の良さを全国に発信、転入したい町・永住したい町NO1にする。	自主財源の確保 会員増 システム化 広報ツール充実
ハンズハンズ	継続的活動ができるようにする。子どもやお年寄りが毎日利用できる場所作り 自主財源・お年寄りの収入を実現	組織体制の強化 人材確保 収入源の多様化 広報充実
熊本大学災害ボランティアサンフラワー	ビジョンの明確化や役割分担など組織体制が整い、他の学生団体等と連携し、継続した活動ができています。	新入部員の確保 組織基盤 計画—実行性 学生活動報告会

各団体の課題(セミナー資料より)

2. 復習Time

ママハタラクプロジェクト	ハロウィンマルシェ実行委員会	よかあんばいJAPAN
<p>人材不足の中、まだ企業は8時間労働、出社の働き方を求めているが、実は人材の強みを理解し、組織として働き方の多様化を行うことで、人材不足の解消につながる。</p> <p>女性が育児で仕事を辞める現実の中、優秀な女性たちが多く埋もれている。</p> <p>ママハタラクプロジェクトでは、活動の中からダイバーシティの実践を行い、課題を解決するプロジェクトとしての認知団体になる。</p>	<p>認知度の高いイベント</p> <p>実行委員会のレベルアップ(10人体制くらい)</p> <p>他とのコラボができています</p> <p>自己資金で運営できる体制—ビジネスとしてワクワクするイベント開催できるように(ガールズフェスティバル・ボーイズフェスティバル・スターフェスティバルなど)</p>	<p>①長期休みに子どもたちを預かり、家ではなかなかできない生活体験をし、自分のごはん・味噌汁は自分でできるようになる。そのことを通じて親に感謝する気持ちが芽生える。</p> <p>②協力者・地域担当が増え、幼稚園や保育園、小学校で味噌づくり体験が恒例となる。</p> <p>③味噌づくりを親子で楽しむワークショップの開催が増え、手作り味噌を家庭でも作る人たちが増える。</p>

2. 復習Time

熊本転入ママの会くまてん	ハンズハンズ	熊本大学災害ボランティアサンフラワー
<p>活動をルーチン化、入ってきたばかりの人にも運営できるようにする。</p> <p>活動を安定化させる(寄付などの収入源)</p> <p>ネット上の情報発信充実。</p> <p>熊本の良さを全国に発信、転入したい町・永住したい町NO1にする。</p> <p>転入ママが生活しやすいような情報整備</p>	<p>組織体制を強化し、継続的活動ができるようにする。</p> <p>子どもやお年寄りが毎日利用できる場所作り</p> <p>自主財源・お年寄りの収入を実現</p> <p>HPやFB,チラシなど有効な広報活動を行う。</p>	<p>団体として一継続した活動ビジョンの明確化や役割分担</p> <p>組織体制の明確化</p>

支援者・協力者へのメッセージ&プレゼンワークシート

4、ルールプレイング

話題づくり

企業名	先方面会者	関係性	エピソード 保持者	エピソード

Copyright© LIFULL Social Funding All Rights Reserved.

55

4、ルールプレイング

スクリプト（台本） 訪問企業名： _____

前回の寄附の御礼とご報告 or お待問いただいた御礼 or ラポール（話題）

団体の活動・近況について

事業についてのご説明

Copyright© LIFULL Social Funding All Rights Reserved.

56

●支援者・協力者に向けてメッセージ作りWS

	①支援者・協力者 {誰に?}	②何を依頼?	③実際実践した か?
ママハタラク プロジェクト	企業	事業連携依頼	依頼済み
熊本転入ママの 会	・熊本銀行	・協賛依頼	・次回開催で依頼
	・福田病院	・パティシェとのコラ ボ	・次回依頼
	*初めての取り組みで、協力者依頼まで余裕がなかった。次年度 企画段階で、依頼できるよう計画を立て実行する。		
よかあんぱいJA PAN	企業	学習支援 資材共用	協力依頼済み
ハロウィンマル シェ実行委員会	企業	支援	依頼済み
ハンズハンズ	嘉島町町長	面談 (嘉島町広報誌に 定期的なだんだん 食堂の掲載を依 頼)	教育委員会へのお 礼と依頼の文書発 送済み ・企画書を持参して 面談依頼予定
熊本大学災害ボ ランティア サンフラワー	学生	ボランティア	依頼済み

セミナー 成果	<ul style="list-style-type: none"> ・擬態的なプレゼンは、勉強になり、他団体のプレゼンを聞くことで刺激を受けたようである。 ・連続したセミナーを行うことで、他団体との仲間意識・協力体制がとれるようになった。
改善	<ul style="list-style-type: none"> ・都合により参加できなかった2団体については、財団担当者で個別研修を行い、フォローを行った(サンフラワー・よかあんぱいJAPAN)

